

# 会 議 録

(敬省略 ※発言は要約です)

会 議	平成26年度 第1回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会
日 時	平成26年4月23日(水) 午後1時30分～午後3時45分
場 所	美濃加茂市生涯学習センター203号室
出席者	<p>【ビジョン懇談会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤武志(会長)</li> <li>・高嶋 舞(副会長)</li> <li>・岸田眞代</li> <li>・種村浩人</li> <li>・林 尚史</li> <li>・加藤慎康</li> </ul> <p>【美濃加茂市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長 藤井浩人</li> <li>・総合戦略室長 伊藤誠一</li> <li>・市民協働部長 渡辺久登</li> <li>・地域振興課長兼定住自立圏推進室長 大畑英樹</li> <li>・定住自立圏推進室 安田智洋、伊藤浩申、川上明里</li> </ul> <p style="text-align: right;">合計13名</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委嘱式</li> <li>・みのかも定住自立圏構想について</li> <li>・市長の思い(ビジョン懇談会に期待すること)</li> <li>・自己紹介</li> <li>・自由討論</li> </ul>

推進室長	<p>開会宣言。はじめに委嘱式を行います。</p> <p>(委嘱式)</p>
市民協働部長	<p>みのかも定住自立圏構想について、資料を基に説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定住自立圏構想は総務省が提唱した事業で、今年で5年目を迎える。都市圏の人口の一極集中を防ぎ、今後の少子化に向けて地域に人口を定着させる取り組み。中心市と近隣の市町村で圏域を形成し、圏域全体で人口定住と自立を図る。美濃加茂市は7つの近隣町村と個々に協定を結んでいる。</li> <li>・定住自立圏構想は平成27年度以降も強力に進めていくと総務省から発表され、財源も大幅に拡充される。</li> <li>・現在のみのかも定住自立圏構想では、広域的に進めている事業が多々</li> </ul>

<p>市長</p>	<p>あり、中には既存事業に財源を充当している事業もある。そのため、この総務省からの発表を機に、平成27年度から『第2次みのかも定住自立圏構想』として、新たなビジョン作りを今年度に行う運びとなった。「都市圏とのつながり」「新しい公共」を基本方針に、市町村の個性を活かしたビジョン策定を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジョン懇談会委員として、ビジョンの決定に係るアドバイスや審査、発信力への助言や地域づくりに関する仕組みや人材育成への助言の他、美濃加茂市や市長のシンクタンクとしてご協力をいただきたい。</li> </ul> <p>本日は遠方よりお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>定住自立圏構想を実現するにあたり、「生き残る」という強い想いを持たなければ、これからの少子高齢化は乗り越えられないと考えています。このビジョン懇談会を通して中心市としての在り方や、行政の仕組みや業務の進め方などに様々な可能性を広げ、近隣町村と連携してこの圏域を一つの手本となるよう政策を進めたいと思っています。</p> <p>皆さんには、圏域外部からの目でこの地域の良さを見ていただき、都市圏の先進的な情報を交えながら、みのかも定住自立圏の評価や発信力に対するアドバイス、時に指導者として力をお借りしたいと思っています。</p> <p>みのかも定住自立圏構想は、この地域への定住を促進するだけでなく、世界規模で人や情報の交流が活発になり、どこに居てもみのかも定住自立圏とつながっていくような、独自のやり方で、生き残りを図りたいと考えています。地域活性化に向け、委員の皆さんには厳しいご意見を忌憚なく発言していただきたいと思います。どうぞ、よろしくをお願いします。</p>
<p>推進室長</p>	<p>本日が初の顔合わせとなる方もいますので、それでは順番に自己紹介をお願いします。</p>
<p>(自己紹介)</p>	<p>(自己紹介)</p>
<p>推進室長</p>	<p>それでは自由討論に移ります。</p>
<p>美濃加茂市や加茂郡に対して、都市圏から要求されているものは何であるのか、率直な意見をお聞かせください。</p>	<p>美濃加茂市や加茂郡に対して、都市圏から要求されているものは何であるのか、率直な意見をお聞かせください。</p>
<p>林 尚史委員</p>	<p>その前に、この過去5年間でどんな事業を実施してきたのか教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在の共生ビジョンは、圏域全体で事業を実施することを主として</p>

	<p>きました。多方面の分野の事業を掲載しております。しかし、限られた財源の中で、広く薄く事業費が配分されています。また、連携によるメリットが見出せなかった事業もあります。</p>
岸田眞代委員	<p>現在の33事業の中で、町村から提案された事業はありますか。</p>
市民協働部長	<p>現在の事業は美濃加茂市が主となり、他町村との協議の結果、取り決めています。</p>
岸田眞代委員	<p>平成27年度に向けた提案について、どのような状況で進んでいますか。</p>
市民協働部長	<p>現在、美濃加茂市の担当者と近隣町村に提案事業を募っています。これまでの総花的な事業ではなく、各市町村で2～3個程度にしぼり、1,000万円単位の予算で事業に取り組みたいと思います。</p>
種村浩人委員	<p>良い考えだと思います。事業数が多いと事業費も少なくなり、「ばらまき」の状態になりがちですから。</p>
岸田眞代委員	<p>質問です。資料を見ると、平成26年度の予算が決まっているようですが、今年度の事業はどのように実施するのですか。</p>
事務局	<p>平成26年度は現在の33事業を、平成25年度ベースで実施します。しかしこの33事業は、平成27年度からは一般財源に置き換えて実施するなど、事業自体の精査を今年度に行います。</p>
種村浩人委員	<p>現在の事業の体制は、圏域全体で協議するのではなく、美濃加茂市や各町村の担当者同士で協議する形なのですね。</p>
事務局	<p>美濃加茂市の係長がプロジェクトリーダーとなり、近隣町村の担当者と協議して事業を実施してきました。</p>
種村浩人委員	<p>中心市の政策に近隣町村が乗っていくというイメージですね。たしかにこの流れを継続していくだけでは、新鮮味が無くなっていくように思います。</p> <p>しかし、美濃加茂市の政策に乗ることについて、近隣町村と意見が対立することはなかったのですか。</p>
市民協働部長	<p>みのかも定住自立圏の最大の特徴として、近隣町村と1対1で協定を結んだ時期が違うことにあり、圏域全体で事業を行う事を縛るもの</p>

岸田眞代委員	<p>ではないということです。そのため、町村によっては協定書に該当しない事業は行わないことも可能です。</p> <p>私たちがやるべき事として、第3回目のビジョン懇談会にプレゼンの審査をするならばその基準や評価方法を議論すべきだと思いますが。</p>
事務局	<p>評価基準についてはまだ決まっていません。美濃加茂市や近隣町村からの提案事業はこれから集計していく段階です。</p> <p>今のところ、美濃加茂市からは4～5つの提案が挙げられており、近隣町村にも提案事業の概要を記した調書を提出するよう進めています。次回の6月の第2回ビジョン懇談会では、その概要調書（美濃加茂市と加茂郡町村）の一覧を皆さんへお知らせします。</p>
種村浩人委員	<p>美濃加茂市から挙げられている提案とは、どのようなものがありますか。</p>
推進室長	<p>平成記念公園北部未利用地を、里山として活用する計画で、里山はこの地域にとって大きな資源のため、整備や開発を行って地域交流などの場をつくります。また、その様子や雰囲気都市圏の住民や地域住民へ広く発信することも視野に入れていきます。</p> <p>日本昭和村でのアートイベントとして、平成記念公園の一画に、名鉄グループが市の指定管理を請け負っている施設「日本昭和村」があり、名鉄グループから地域密着をテーマにしたアートイベント開催の提案が挙がっています。名古屋圏に住む芸術家などと連携し、アートイベントを開催して、人々をこの地域に集め、地域物産品を売り込む予定です。</p> <p>地域ケーブルテレビの活用として、この地域には「FM 放送」というコミュニティ放送があり、事業者から提案してもらい、放送を圏域で活用しようという取り組みです。</p> <p>ちなみに、アンテナは可児市（圏域外）にあり、美濃加茂市・坂祝町・富加町・川辺町・八百津町に電波が届きます。</p> <p>名古屋圏に「名古屋事務所」を開設し、活動拠点とする取り組みが挙がっています。中心となるのは美濃加茂市で、定住圏域に関する情報を発信する予定です。</p> <p>木曾川という大きな資源を活用する事業も検討しております。</p>

種村浩人委員	日本昭和村の来場者数は、現在どのくらいですか。
市民協働部長	40万人程度です。ピークは平成15年の140万人で、採算を取るには40万人が必要だと聞いています。
総合戦略室長	<p>皆様のご都合にもよりますが、皆さんに圏域を見ていただく機会が必要ではないかと思います。</p> <p>また、先ほどの審査基準についてですが、形式的な基準というものはありません。皆さんが「この事業をやってみたい」と感じるかどうかを重視してください。提案された事業を選ぶ場ではなく、提案された事業の改良案や率直な意見をぶつけてもらう場にしたいと考えています。</p>
市民協働部長	今日を含めたこれらの情報交換の場を通し、全国を回っている皆さんには、この地域のPRをしていただくことをお願いできればと思っていますので、よろしくお願いします。
加藤慎康委員	<p>先日、紀伊半島の奈良県・和歌山県・三重県がタッグを組み、名古屋のテレビ塔でプレゼンするというイベントがありました。都市圏から地方へ移住し様々な取り組みを行っている人物を招いて、トークショーを行いました。意外にも名古屋の若い世代が興味を持っており、イベント後の反響から、ツアーを開催するまでに至りました。</p> <p>この地方で名古屋圏から注目される資源は、「中山道の太田宿」だと私は思います。今の太田宿は、旅人が太田宿以外の他地域に足を運ぶには、いささか情報発信力が足りないように思います。他のエリアの特産品やイベントの情報を密にして発信できたら、都市圏の人々が太田宿自体にも行きやすくなると思います。</p>
種村浩人委員	近隣の宿場町が映画の撮影に使用されたように、美濃加茂市の太田宿も、時代を映す作品などに需要があると思います。
加藤慎康委員	太田宿に住みたいという声や店を構えたいという声が聞こえてくるのですが、土地と建物の権利が分けられているらしく、諦めている現状があります。この問題をクリアできるともっと太田宿は発展すると思います。
加藤武志委員	仕組み作りについてですが、私たちの役目は、プレゼンで挙げられた取り組みをアドバイスすることですが、元々の質を高める必要があると思います。

	<p>経験的には、資金が先に立つとうまくいかなくなる事例が多く、資金を消化するための取り組みになってしまいます。それでは周辺町村のモチベーションも上がりませんし、取り組み自体も横並びで面白みのないものになってしまうでしょう。</p> <p>大切なのは9月のプレゼンをする前の段階です。私たちと各役場や民間住民たちが、今のような議論が出来る場を作らなければ、健全な状態とはならないと思います。</p> <p>例えば私たち委員がそれぞれの地域を担当するなど、知恵を出す側に刺激を加えるような動きが出来れば、圏域内で良い競い合いができ、形骸的になりにくいと思います。</p>
岸田眞代委員	<p>私も同意見です。長期にわたる政策ならば、しっかりとした仕組み作りをするべきだと思います。</p>
林 尚史委員	<p>定住自立圏は、人々がずっとその地域に住み続けるまちづくりだと理解しています。では、その地域に人がずっと住み続けられる町とは、どんな町でしょうか。私は、若者が残りたい、夢を持ちたいと思えたり、親世代が子育てしたいと思えたりする町だと解釈しています。</p> <p>そのためには、教育分野が重要だと思っています。若者が外に出てしまう背景に、地域にロールモデルが少なく、憧れる人物に出会えないことが挙げられると思います。その地域に一か所だけでも、誰もが誇れるような教育施設があれば、若者の流出を防げるのではないのでしょうか。</p> <p>北海道の積丹郡にある余別町に、公民館と小学校を合わせた施設があります。それ自体は珍しくもないのですが、デザインや置いてある家具が逸品で、その道のプロが見てもクオリティが高いと評価されるものを揃えているそうです。昼は学校、夜は飲酒のできるゲストハウスとなり、目の肥えた都会の人々から高い評価を得ているようです。</p> <p>このように、外部からきた人々にとってゲストハウスや宿泊施設は重要で、地域の活性化につながりやすいと思います。</p> <p>正直なところ、今のみのかも定住自立圏を東京の人に話しても、その場の話題で終わってしまうでしょう。都会の人々が目指すのはおしゃれな空間で、そのニーズにどうやってこの地域の魅力を落とし込むかが大切だと思います。</p> <p>そして、定住の取り組みや財源が無くなった後も、地域活性化を続けるために、何か一つでもランドマークとなる施設があると次に繋がります。</p>
加藤慎康委員	<p>私もゲストハウスの必要性を感じています。名古屋が観光都市になれない理由として、名古屋にはゲストハウスが少ないことが挙げられ</p>

	<p>ます。そのため現在、旅行者が「良い」と感じる施設をつくる計画が、名古屋で動いています。</p>
種村浩人委員	<p>本日も通ってきましたが、やはり中山道という資源を活用すべきだと思います。</p>
加藤慎康委員	<p>私も先週、中山道を訪れました。そこで出会った住民は、孫世代のために家を建てたが、肝心の孫世代がこちらに居ないことを寂しそうにつぶやいていました。このような地域住民たちが「この町は良い町だ」と声を上げてくれるようになれば、成功だと思います。</p> <p>太田宿を玄関口として、国道41号線を奥に進んでもらうよう、イベントを興してみるのも手だと思います。</p> <p>昨年、きそがわ日和実行委員会が中山道でアートイベントを開催しましたが、とても良い動きだったと思います。こういったアートイベントを開催できる人々は、上手い見せ方や細かな情報を知っている人が多くいます。もっと下支えをして、人で人を繋ぐ動きを大切に、この場がゲートウェイとなると良いと感じました。</p>
高嶋 舞委員	<p>過去に、課題を基に新たなビジネスを生み出すイベントや、長良川温泉博覧会（長良川おんぱく）などを実施してきましたが、こういった市民の人が事業を立ち上げるとき、とても面白いアイデアが多くありました。市民の提案だけでなく行政も混じって意見を出し合えば、様々な手法のアイデアが出され、良いものが生まれる可能性が広がると思います。この地方は、掘り起こすと良い資源がたくさんあります。それをどう発信していくか、どう工夫していくかが問題です。</p>
岸田眞代委員	<p>長期的に定住したいと思えるまちづくりをするために、地元住民は圏域に対して好感や愛着が持てる動きがあれば良いと思います。自分たちの提案したものが事業化されれば、住んでいる人々はこの土地に住む楽しみが生まれるでしょう。このような行政が提案していく仕組みではなく、住民の総意的なアイデアを汲み取れるような仕組みを今作るべきです。</p>
市民協働部長	<p>昨年までのビジョン懇談会は、各市町村から民間の委員を3名選び（美濃加茂市は7名）、28名の人数で現在の33事業を作成してきました。しかし今回は、市町村ごとにこのような懇談会を開き、各市町村で協議するという形を取っています。そのうえで事業を提案してくる流れとなりますので、皆さんに見てもらうのは各市町村で協議した結果の提案事業となります。</p>

種村浩人委員	<p>それでは、ビジョン懇談会のプレゼンで挙げられる事業案は、その地域住民の意見となるのですね。たしかに地域の細かな課題は見つけやすくなりますが…内容の方向が外部へ向かない可能性があると思います。</p>
加藤武志委員	<p>種村委員の言うように、今回の場合、内部で完結してしまう流れでは良くないと思います。地元住民とは違う視点を持つ促進者との協議のないまま、町村に任せてしまうのは、逆効果なのではないでしょうか。</p> <p>現在のような事業を募集する段階ならば、我々の投げかけた意見や疑問も修正・吸収できると思いますが、ある程度固まってしまうと効果は薄れてしまうでしょう。せつかくこのような人材が揃う機会なのだから、この懇談会を全体で開催してはどうですか。</p>
種村浩人委員	<p>どこの地域でも少子高齢化が進んでいます。地元の住民だけで委員会を作ると、偏った意見ばかりが集まってしまう可能性があります。</p>
林 尚史委員	<p>そうですね。少子高齢化という目の前の課題があり、それを解決しようとして福祉バスを走らせてしまうと、若者には何のメリットも無いわけですから、余計に若者の流出が進んでしまう。高齢者は自分たちの首を絞めてしまう結果となるでしょう。</p>
岸田眞代委員	<p>福祉バスを運営するのが行政ならば、林委員の言うような結果となりやすいでしょう。民間企業や団体の若者たちで動かせるようになると安心です。</p>
種村浩人委員	<p>若者の流出を防ぐためには、若者が踏ん張れる場を作らなければ。</p>
市長	<p>本日は貴重な時間をいただき、ありがとうございます。</p> <p>皆さんから力強い言葉をいただきました。ぜひ企画段階からご意見をいただき、シンクタンクとしてご協力いただければ、と思います。</p>
市民協働部長	<p>今年度は本日のようなビジョン懇談会を5回設けています。多忙な皆さんが全員集まることは難しく、それを踏まえての5回というスケジュールです。これ以上全員が同じ場所と時間で集まるのは困難ですので、今後、個別に相談に行くこともあるかと思います。皆さんのお力をお貸しいただけますでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>



総合戦略室長	<p>市長からもお願いがありましたように、美濃加茂市としても、皆さんの力をお貸しくくださいますようお願いいたします。定住自立圏推進室と連携し、市の政策も進めていきたいと思えます。</p> <p>提案事業の簡単な概要を記入する概要調書の提出期限を6月上旬に定めていますので、次回のビジョン懇談会ではその調書の一覧を皆さんにご覧いただく予定となっています。</p>
事務局	<p>次回のビジョン懇談会の日程ですが、今回は名古屋のテレビ塔の事務所をお借りして、『名古屋から見たみのかも定住自立圏を考える場』にしたいと思えます。そしてその時、もし可能ならば町村職員や代表者も同席し、共に圏域のまちづくりを考える機会を作りたいと考えています。</p>
推進室長	<p>次回のビジョン懇談会は、6月27日（金）午後2時30分から名古屋テレビ塔で開催を予定しています。</p> <p>内容は美濃加茂市や町村から挙がってきた概要調書をご覧いただくことその他、平成25年度に圏域イメージ調査ヒアリング（美濃加茂市や圏域のイメージを、聞き取り調査したもの）の結果を情報提供します。</p> <p>名古屋から見た圏域のイメージやニーズと、実際に挙がってきた提案事業を照らし合わせて、皆さんからの意見をお聞きしたいと思えます。</p>
推進室長	<p>最後に、ビジョン懇談会委員の会長を加藤武志委員に、副会長を高嶋舞委員にお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。</p> <p>加藤武志委員、高嶋舞委員、承諾。 （他委員 異議なし）</p>
推進室長	<p>それではお二人に会長と副会長をお願いいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。これにて第1回ビジョン懇談会を閉会します。</p> <p>（終了）</p>